

## コペンハーゲン市長の講演

デンマーク・コペンハーゲン市のモーテン・カベル技術・環境担当市長から、風力やバイオマスを中心としたクリーンエネルギーの積極的な活用をはじめとする環境エネルギー施策の分野で、世界的にもトップクラスの先進都市として知られているコペンハーゲン市の取組事例をご紹介します。ご講演の概要は以下のとおりです。

コペンハーゲンは炭素の排出量を大量に削減し、2025年までに、排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素の量を同じにするカーボン・ニュートラル(炭素中立)都市に世界で初めてなることを目標としています。環境にやさしい持続可能な都市を目指すときにまちがコンパクトであることは重要であり、地域暖房の果たす役割は大きいと言えます。現在、コペンハーゲンの地域暖房サービスは、市の98%以上のビルに供給されており、これは世界で一番の数字となっています。

環境に配慮することは、経費の増加を意味するものではありません。1994年から2010年までの間に経済活動が25%高まった一方、温室効果ガスを40%削減することができました。コペンハーゲンの強い経済は、このような環境に良い変革を行ったことに要因があります。



## 国連開発計画 (UNDP) 駐日代表事務所 近藤代表の講演

国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所の近藤哲生代表から、昨年、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の概要と地域開発における地方自治体同士の国際協力をテーマにご講演いただきました。ご講演の概要は以下のとおりです。

SDGsは17の目標と、169のターゲットで構成されており、貧困や飢餓の撲滅、気候変動への対策、再生可能なエネルギーの確保など、開発途上国だけでなく先進国も自国での取り組みを求められるものが多く含まれています。SDGsの達成は、国連や国のみの問題ではなく、住民の生活に直結した行政サービスを提供する地方自治体にも深い関わりがあります。近藤代表が以前勤務されていた旧ユーゴスラビアのコソボとアフリカのチャドでは、国の発展に向けて、「地方分権を進める」という政策が共通して推進されていました。

近年は「地方自治体から地方自治体への自治体間協力」も広く普及してきています。地方自治体発の知見や人材、資源が世界で広く求められ、多くの成果を挙げています。日々の市政を通じて、SDGs達成のために何ができるかを一緒に考え、取り組んでいただければ幸いです。



## ウランバートル消防技術支援事業の結果報告

会員都市のモンゴル・ウランバートル市のサンダグドルジ・バヤルバートル戦略政策企画部長から、市長会ネットワークの活用事例として、札幌市によるウランバートル市への消防技術の支援事業についてご報告いただきました。

急激な人口増加と都市化の進行により、高層ビルの建設が増加している一方、高層ビルでの火災など大規模災害があったときの対策を整備するため、国際協力機構(JICA)の「草の根技術協力事業」という制度を活用し、2013年から2015年までプロジェクトを実施しました。2012年のウランバートルでの世界冬の都市市長会議開催がひとつのきっかけとなり、両市の消防技術協力事業が成立し、大きな成果を上げることができました。

## 札幌開成高校生徒によるまちづくり提言

国際社会で活躍できるグローバル人材を育成する文部科学省のスーパー・グローバル・ハイスクールに指定されている札幌開成高校3年の生徒から、若者の視点から見たまちづくりの事例として、まちづくりに演劇を活用することの有用性について提言がなされました。

演劇は「コミュニケーションのアート」、「生きているアート」、「市民がつくるアート」という3つの強みを持っており、これらを生かして、中高生が「地域の課題を演劇にする」という取り組みを行いました。プロの演出家を学校に招き、生徒が「特殊詐欺」をテーマに演劇を作り、地域のお年寄りに発表しました。観劇者から、「演劇は印象に残りやすく、また世代間の交流にもつながる」という声が寄せられ、好評を得ました。

## 冬の都市見本市

市長会の活動を通じて培った会員都市同士のつながりを生かして、会員都市間を人・物・情報の行き来を促進し、まちのさらなる発展に結び付けることを目指して、「冬の都市見本市」を開催しました。

冬の都市見本市は、世界冬の都市市長会議の主催都市によって開催されるイベントで、これまで世界各地で12回行われてきました。札幌では、物産の販売や展示により会員都市の魅力をご紹介する「2016ウインターシティーズ・ショーケース」と、企業間の商談チャンスを創出する「ビジネス交流会」を行いました。

### 2016ウインターシティーズ・ショーケース

7月29日から31日までの3日間、札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」にて、市長会議に参加した都市などがブース出展し、工芸品や衣料品、食品を展示販売したほか、会場内にパネルを展示し、都市の魅力を紹介しました。初日のオープニングは、札幌市の秋元市長の開会あいさつに続き、出展都市の代表者によるテープカットで幕を開けました。期間中、多数の来場者に冬の都市の特色ある物産や展示をお楽しみいただきました。



### ビジネス交流会

7月28日、札幌プリンスホテル国際館パミールで行われ、札幌・北海道及び市長会会員都市から環境分野と旅行分野の企業が集まり、個別商談会を開催しました。今後のビジネス交流への発展を期待できる、ネットワーク構築の機会となりました。



## 冬の都市フォーラム

1981年に札幌市の提唱により誕生し、国連の登録NGOでもある世界冬の都市市長会。市長会の主要事業である市長会議が、34年ぶりに札幌市で行われたこの機会に、7月30日に共済ホールで記念イベントとして「冬の都市フォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、市長会のこれまでの活動を秋元札幌市長が紹介したほか、ウランバートル市のバイラルバトル戦略政策企画部長から市長会ネットワークの活用事例として、市長会議がきっかけとなって始まった札幌市のモンゴルへの消防技術協力事業も紹介されました。さらに、国連広報センターの根本かおる所長と、国連開発計画(UNDP)親善大使で俳優の紺野美沙子さんが、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」や、ご自身の活動体験を交えながら、2016年に日本が加盟60周年を迎えた国連の活動をご紹介しました。



### 「持続可能な開発目標(SDGs)」について

2015年9月、ニューヨークの国連本部で「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標を掲げました。この目標が、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」です。

国連に加盟するすべての国は、2015年から2030年までに、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な開発のための諸目標を達成すべく力を尽くします。

